平成 22 年度第 3 回小田原市環境再生プロジェクト検討委員会概要

- 1 日 時 平成 22 年 9 月 27 日 (火) 19:00 ~ 21:00
- 2 場 所 7 階 大会議室
- 3 出席委員 (8 名)
小澤委員長・星野副委員長・近藤 (増) 委員・大野委員・森谷委員
・近藤 (忠) 委員・村越委員・山本委員
- 4 事務局職員 (3 名)
井澤次長、藤澤課長補佐、勝俣主事

5 委員会の概要

(1) 実証 (モデル) 事業の進捗状況について

(資料 1 に基づき藤澤課長補佐より議事及び報告事項説明)	
小澤委員長	モデル事業の進捗状況の報告と今後の日程について、各担当より説明願いたい。
大野委員	資料 2 の事業の計画に沿って説明を行いたい。6 月より事業が開始された。8 月には自然観察会を実施した。菊川をきれいにする会の定例イベントで去年から実施している。春に植えた花が丁度乾燥で枯れてくる 9 月に種まき会を開催した自治会の活動であるが、その会に隣の自治会関係者及び環境政策課の職員 3 名が参加した。 その際間伐材のプランターの使用等について議論し、上手くいけば、プランターを使用して南鴨宮自治会 4 区の自治会と協働で活動ができることを話し合った。10 月からの活動はプランターを利用するため表面を焼いたり、ペイントをほどこすなどを実施したいと思っている。 11 月には実際にプランターを設置する予定である。 土の質が悪いこと、継続して花壇を管理して行くため、公園に落ち葉の圃場を整備する予定である。 12 月にはパンジー、ビオラの花植えを行い、今年度の花植えはこれで終わりである。1 月はまとめを行う。
近藤忠委員	付け加えると、作業を通して調べていく必要があるのは、苦労されている点が見えない部分 (自治会との電話のやりとり等) にあることである。その辺りを記録として残し、エッセンスを必要な機能に反映させていくことが必要である。
小澤委員長	課題になっていることは何か。
大野委員	自治会との連携である。周辺自治会のキーマンが対岸の川岸で活動しているが、老人会が外に出て作業を行うというスタンスであるのであまりハードなことはしない。一方で、こちらはモデル事業として何らかの結果を出さないといけない。そういったことがあり、なかなか乗り気になっていただけないのが課題であったが、先日市の職員がプランターについて話をしたことで、前向きに検討する姿勢がうかがわれた。今後どういった展開をするかが鍵になる。 緑化を実際に始めたことで、水まきの問題、土の問題、苗の購入、

	技術的な課題など山積している。
小澤委員長	下菊川については補足する事項があるか。
藤澤課長補佐	9月19日に花植えを実施したわけであるが、この後核となる地元自治会（老人会）と提案者側の市民団体と、プランターの取り組み等の使用に関し説明を行った。水はけの問題等で双方に課題をかかえており、プランターの使用はかなり現実味を帯びた話になったように思う。今後、老人会等の主要なメンバーとは前向きに活動を行っていくお話をいただいている。継続して関係団体を集めてこのような場を持ちたいと考えている。
小澤委員長	準備段階で予算や行政のバックアップ体制についてはどのようになっているか。
藤澤課長補佐	委員の皆様の動きと合わせて調整していきたいと思っている。資金的な問題をどのように提供していくのか等は、今日のその他の議題で取り上げようと思っていたが、緑の分権改革で若干の物的支援は可能である。予算化しているものもあり、バックアップをしていこうと考えている。
小澤委員長	担当部署との連携はとれているのか。
藤澤課長補佐	河川課については話を通してある。具体的な活動に応じて対応していく。みどり公園についても同様である。
森谷委員	活動の範囲内では問題ではないということか。
小澤委員長	もともと既存の取組みの枠組みを超えていないため大丈夫ではないか。
山本委員	モデル事業報告書にあるとおり、学校教育との連携についてはどの程度考えているのか。富士見小学校の3年生は菊川について調べていて花植えなどを実施したいという思いがあるようだ。今後も広がっていくと思うのだからどのようにお考えか。
大野委員	今は学校については考えていないが、今後積極的に行っていききたい。具体的にはどのあたりから始めるかは決まっていない。
井澤次長	元々地域から始まったことが広がってきている。老人会、自治会に広げていききたいと考えている。また、学校関連に広がることを想定すれば、行政側からコンタクトを取りたいと考えている。
小澤委員長	どのような形で関わるのかについては今後大野委員とも相談の上、進めていただきたいと思っている。
森谷委員	河の事業というところで、他にも応募した方がいるが広域的な設定はお考えか。
大野委員	既に活動に入っているため、範囲の拡大については今後情報をやり取りしていく上で考えていききたいと思っている。
井澤次長	できれば3月に実施するエコシティの場で発表していただきたい。その場で情報の発信をしていただきたい。
小澤委員長	モデル事業として設定したということではなく、河川の活動をしている方々に少しでも関わっていただけるような場をエコシティ以外にも設定したほうがよいのではないかとと思う。
藤澤課長補佐	今回身近な河川ということで取組みをしていただいているが、それぞれがさまざまな活動をしている中で1つのモデルとして地域に広められればという狙いがあったため、モデルケース化を期待した取組みが進めばと思う。
星野副委員長	地元企業との連携はとれているか。
大野委員	今のところ連携はない。

星野副委員長	企業は存在しているか。
大野委員	大きな企業はないが、富士プラスチックの関係者が大変環境に関心を持っている。また、森谷さんからお話があると思うが、企業ではないが市民活動団体が富士見小学校で活動を実践している。
小澤委員長	手入れ不足の森林の関係を山本委員に説明願う。
山本委員	<p>9月時点の進捗状況であるが、6月より地権者と森谷委員、近藤増男委員より協力依頼を得てから、除伐を実施している。大山製材と小田原植木さんの協力の下、枝の伐採などを行った。現在は10月3日のイベントに向けた林内整理を28日に実施した。その前に関係団体との打合せということで市内の森林関係の団体等との話し合いを持っている。先日2回目の話し合いがあり、小田原の森林にどのように関わっているか、またどのように連携をとっていくかを話し合った。</p> <p>3日のイベントでは、間伐材の利用先を目的としたイベントを計画している。現在、参加者を募っているがあまり集まっていないと聞いている。関心を持っていただくのは難しいが、ダイナシティのほうで利用を含めた興味をもっている方がいる。3日のイベントにも参加予定である。</p> <p>それ以外の活動は選木から本格的な間伐に移行して行くことになる。31日の間伐に向けて少しずつ活動を進めている。</p> <p>12月のシンポジウム等については森谷委員から説明を行う。</p> <p>次年度以降どのように活動していくかについては課題であるが、団体との話し合いのなかで考えていきたい。</p>
森谷委員	<p>第2回目の会合があるが、今後の方針等についても話し合った。小田原の森林の大部分が人工林である。上部は公有林で適切までいかないが手入れがされている。問題は市街地との接触地域に見られる個人所有の森林である。市街地に隣接する土地をフィールドとして活動する必要がある。</p> <p>課題となるのは、プロとよばれる林業に関わっている方、市民との協働、それぞれの適切な住み分け、業務の分担等を考慮する必要がある。市民でしか出来ない、小まめで生物多様性のような多面的機能を発揮するような活動が必要である。今回の実証（モデル）事業として重要なことは、ここを起点として周辺の山主さんへの周知を行うことである。</p> <p>実証していくことは測量、調査人員・経費等がどの程度必要であるのかなど算出することが必要であると考えている。</p> <p>さらに近隣の地図などを作成したい。どのように伐採し、どのように切り、選木していくかについては山主さんの意向等も含め山をどのように協働して作り上げていくかをシンポジウム等で話しあう場を設けたい。</p>
小澤委員長	マップづくりとおっしゃったがグリーンマップのことか。
森谷委員	そこにつながるが、森林の測量近隣の調査等である。
小澤委員長	それぞれの間伐イベントが3日間あるが、具体的な内容は決まっているのか。
森谷委員	日程については決定である。31日のイベントについても内容は同様であるが、対象については木材利用者、山主、一般市民としたい。
近藤増男委員	間伐材の置き場だが、私の山が下にあるのでそこに置いても構わない。
森谷委員	置き場が大きな問題となっており、特に屋根がある置き場が不足し

	ている。
小澤委員	課題部分については何かあるか。
山本委員	間伐での労力、人手が課題になると思う。森のなかまを中心に引き受けているがどのように広げて行くかを検討しなければならない。エリア別に関係団体を分けて活動するなど作業日程を組まなければならない。プロとアマのすみわけが必要である。また、材出しの人手が不足していること、またイベント等での人手の確保も必要である。
小澤委員長	イベント等の申込状況はどのようになっているのか。
藤澤課長補佐	全部で4名の応募が来ている。プロジェクト全体を通じて活動の周知に努めなければならない。
星野委員	荻窪の計画であるが、それなりの経験者でないと危険である。作業場所に関しても同様である。当日の作業手順についてはどのようにお考えか。
山本委員	先日森のなかまの作業の中でも課題となったが、年数が経ったものについては触れず、細いものを選木して間伐していただこうと思う。 足場については、何度も林内の整備を実施しており、参加者を応募した限りは安全の確保に努めたい。 参加者も数人でよいと思うが、今後の広がりを考慮すると応募の方法を考えないといけない。
森谷委員	森林インストラクターが6名いるため、研修等を実践に生かしたい。
近藤増男委員	広報活動について教えていただきたい。
藤澤課長補佐	やり方の工夫が必要であるが、ベースとしてチラシの配布や、HPへの掲載等を実践しているが、広報媒体を増やさなければならない。声かけの範囲等も検討したい。アイデアがあればご意見を伺いたい。
小澤委員長	山本委員がおっしゃるように、あまり人数が集まりすぎてもいけないし、最初は少人数で徐々に増やしていくほうがよいかも分からない。
藤澤課長補佐	もう一点重要であるのは、安全の確保である。多くの人数が集まれば確保するのが大変。交通事情等も加味しないとイケない。
山本委員	道路沿いの木に関しては、イベントの参加者には伐採対象から除き、山盛りの会さんにおまかせしようと思う。
小澤委員長	安全管理は気をつけていただいて
近藤増男委員	緑化フェアが10月2日あるが、商品を販売するなどお考えか。今回はイベントが立て込んでいて難しいかもしれないが、企業の協力を得るよいチャンスであるといえる。
山本委員	チラシ等の配布であればできるのではないか。
近藤増男委員	例年2日実施していたが、今回は1日しかないので準備等に費やすと大変かもしれない。
小澤委員	行政のバックアップ体制はどのようになっているか。
藤澤課長補佐	庁内で調整を進めている。
山本委員	今後の課題になってくると思うが、森林の場合は今回で終了ではなく、手をつけた森の管理等をどのように手を加えているのかをどのように考えているのか。隣接した森の手入れを進めて行くという考えもあると思うが、それも含めて協議していくべきである。
小澤委員長	今年度モデル事業として実施しただけでは意味がなく、継続して行くことで環境再生となる。小田原の方向性を含めて皆が認識できる場を設ける必要がある。 それぞれのフィールドをどのように進めていくのか。地域的に区分けするということが。

森谷委員	現在小田原で活動している方々はそれぞれ別のフィールドで活動しているが、一緒に活動するのは難しい。やり方が異なるなど問題がある。小田原の問題を共有し合いうのが理想であるが、具体的なことはまだ浮かんでこない。
近藤増男	里地里山協議会では、積極的な支援をするつもりでいる。
森谷委員	一般参加者の応募についての層を拡大することが課題である。
藤澤補課長佐	先ほどの付け加えだが、教育委員会との連携を考えている。芦子小学校が森の学習、間伐の利用等に興味をもっており、プログラムに組み込めればと思っている。
井澤次長	芦子小だけでなく、学校でプリンターを使いたいと希望している学校がある。組み立てたものではなく、キットのような形で作成から利用までを。校長先生から森に直接入っての学習を取り入れたいという声が上がっている。その辺りを検討していただきたい。
森谷委員	課題がある。第一に交通手段、担い手、加工場所等が問題となる。対応を検討する必要がある。
星野副委員	山主さんは、再生産が出来るような経済性を持たない山から離れてしまう傾向が高まる。外部支援でなければ経済性を保てない状況であるのでますます深刻である。国政レベル、行政レベルを合わせないといけない。
小澤委員長	次に和留沢の土地利用についてはいかがか。
近藤増男委員	<p>役1万㎡の取りだが、緑化組合員と話したところによると周りに人家がある。農の会の方との話したが、開墾することでイノシシ等の害獣を呼んでしまうことや大幅な開墾を行うと上部の土地であることから表土が流れてしまうことから目標設定は限定的であると思われる。近隣の地権者等の了解を得る必要があり、山の再生ということであれば、落葉樹又はもみじ山等でステージを作る。苗木を植え、売却するか、地域に植えさせるなど圃場生産かと思う。道路も狭く、頻繁に出入りするの地元が嫌がる可能性があるため、理解、相談が必要である。その目標によって下草刈等の実施方法も変わってくる。</p> <p>美しい久野里地里山協議会では荒廃農地等を実践しているため、そういった団体の連携が必要である。市民を取り込んだ形であればお茶はいかがかと思う。果樹は難しいが、圃場として、そばなどは良いと思う。地域の方が多少管理できる（関わり合いを持てる）範囲で考えて行くべきである。農地として利用するのはかなり大変。継続性を考えないといけない。下の農地はかなり荒れているし、農作業には季節柄大変なことも多い。春や秋はいいが、冬は霜柱が立つなど問題が生じると思う。</p> <p>楽しむステージづくりということで、紅葉・桜等を植えて、地域が集まる機会にしてみたいと思う。つつじ等の移動が可能な植物を山に戻す運動を利用して畑に移動させてもよいと思う。</p> <p>地元の方に受けられ、経済的な循環が保てれば最高である。地権者と話し合いを持って決めていくべきである。</p>
小澤委員長	スケジュールがいくつか入っているが、どのような方向か。
藤澤課長補佐	モデル事業としての具体的な取組みを実践する方向であるが、特に耕作放棄地の手入れをしてみたいとかそういった中で実際にフィールドとして荻窪、和留沢が確保できた。実践の場としてたまたま和留沢にあたりをつけることができた。世帯的にも13世帯ということで限界集落ということで多くの課題があるが、荒地の再生から地域の再生

	<p>という方向に結び付けたい。</p> <p>何といたっても地域が重要であるので、9月1日に地域の方々と具体的に話し合いをさせていただいた。また、22日には現地を視察させていただいた。もう一度10月の早々には現地の思いをお伺いした。そういった思いを取り入れながら形に出来ないかなど検討をすすめているところである。</p>
星野会長	<p>和留沢の現地を確認してみたが、行政の方で開墾という考え方で行っていたが、どのような植物や作物を作るのか、害獣や気候、雨の問題についてどのように対処して関係していくのが気かりである。近藤委員よりご提案があったように、草刈等をして緑化木を植えることで、その土地にあった生育ができるし、季節ごとに新しい顔となる。どちらを選択するのが大きな問題となる。単なる地域の問題だけでなく、10年後にどのような姿となるのか生態を考えると大変難しい問題であると思う。</p>
森谷委員	<p>場所については大変よい場所である。ただ、35の申請には含まれておらず、35の申請について取り組めない活動がどのような扱いになるのかが分からない。</p>
藤澤課長補佐	<p>フィールドとして特定しているものではなく、たまたまフィールドとして合致した。</p> <p>荒地の再生という分野で和留沢が候補地となった。</p>
小澤委員長	<p>今年度中に十分に話し合いを持たなければ開墾も出来ない訳であり、どの程度の目標を設定するのか。</p>
近藤増男委員	<p>ある程度の目標を設定してしまえば早いと思う。9月～10月中に地元との話をしてしまえば進む事業である。ある程度の内容が実現すれば次のステップへ進むが、魅力あるステージづくりが必要である。</p> <p>目標設定と今後の計画を急ぐべきである。下草刈をするだけでも違う。</p>
森谷委員	<p>確かに素晴らしいところではあるが、委員の労力ということで関われないこともある。ここにたくさんの労力を注ぐのはかなり難しい。その辺りの整理をするべきである。</p>
村越委員	<p>権利関係はどのようになっているか。</p>
藤澤課長補佐	<p>現時点では市有地化を考えている。民有地もありえるが、寄付物件ということで申請されている。</p> <p>地元についても話し合いの結果、市が取得することで安心を得られるというような回答を得ている。管理については地域、関係者、行政と一緒に考えていかなければならない。</p>
村越委員	<p>特殊な土地については市に民間と協力して例外的な事例として進めていく方向性で捉えてよいか。</p>
藤澤課長補佐	<p>民地で実施すべきであるということか。</p>
村越委員	<p>公募を募り、35の申請者が手を上げている活動以外を取り上げるということについて森谷委員からご指摘があったが、荒地の再生というテーマで考えた際にフィールドとして設けられたということで実施するという形でよいか。</p>
藤澤課長補佐	<p>今回モデル事業を公募するにあたり、関わり方の問題で様々な議論があったが、具体的にフィールドを決定しているケースと出来るだけ様々な方々が関わられるような取組みを取り上げたケースと色々あった。今回も荒地の再生ということで、様々な地区にそのような取組みがあり、また材についても入り口と出口ということで取組みは様々</p>

	あった。行政のほうが提供できる場があるのではないかといい中で今回その場を一つのフィールドとして提供することとなった。
近藤忠委員	森谷さんがおっしゃっていることも分かるが、以前に検討委員会で話したとおり応募された方というのはそれを全てモデル事業にするのではなく、動きがあるものについては、良いところ取りではないが、それをモデルにしていこうということである。動きのある取組みについてはこちらからアクションしている。ただ、それを行っているなかでも報告書に反映する際に弱い部分がある。進み方の状況であるが、具体的な状況になってみると進んでいるのが見えてこない。こちらの力量やリンクのなさが原因であるが、事務局もその辺りを気にしているのではないかと考えている。当初の目的があれば出来る範囲でやっていくということで広く考えている。
森谷委員	趣旨は分かった。応募者の中にはその土地に興味を示された方や、応募の途中で土地に興味を示された方等いらっしゃると思う。荻窪と同じような形で応募者には土地が必要な方等が提供していく。
藤澤補佐	そのように考えていく。非常に広大な土地であるため少しずつ進めていく。まずは、地元の理解を得て組織化していくしかない。
井澤次長	森谷さんが活動を掌握している。活動を広げるためのプロジェクトであるので、個々に活動している報告等をモデル事業としてではなく活動の成果としてあげていただければ良いと思う。
小澤委員長	次の地域活性化について。陣野委員欠席のため事務局から説明願う。
藤澤課長補佐	地域資源の活用ということであるが、白糸川沿いの滝を巡る散策路をどのように位置づけていくか。地域にとっての価値を地域で考えていく。核となる団体は片浦活性化協議会となっている。何人かの方を動かして下曾我の弓張の滝を視察に行ったり、仮払い等を行ったりした。今後どのように計画するかどうかを検討していく。9月4日に現地を見に行き、地域との話し合いを行い、地域の思いと計画の共有化を図った。 今年度計画としては、アスファルト舗装をするのではなく、仮払いをして足元を整備して歩ける程度にインノウの滝ツアーが実践できればよい。
小澤委員長	今年度アクションとしてはインノウの滝ツアーを考えているのか。
藤澤課長補佐	そのとおりである。
小澤委員長	現地の関係者等は決まっているのか。
藤澤課長補佐	核となる団体は根府川地区活性化協議会で、10数名関係者がいる。地域との打合せでは地域活性化協議会だけでは人手が足りないため、地域の若者等を活動に協力して欲しい。滝が7つあり、それぞれの滝に命名をする、名前を募集するなどの意見がでていたので、今後そういった要望を形にしていく必要がある。 具体的な活動では、現地調査のようなことをしていきたいと考えている。植生調査や選木等を10月から進めていく予定である。
井澤次長	実際に見てみて本当に素晴らしい場所であった。地元の手で、滝を見せるために木を伐採するなど、多少なりとも手は入れている。 地元の方がどうしたいのか、目標はまだ決まっていない。人を呼びたいという意見があるが、騒音やゴミ等の負の遺産も持っている。それについてどのように考えていただく。観光化がすべてよいわけではなく、目標を持っていただかなければならない。 もう一点問題点がある。一番上に水源地があり、セキュリティ等の

	問題はある。応募者側にはやる気があるので、地元の意見を優先しながら計画を進めていくべきである。インノウの滝をどのように生かすかを最初に考えるべきである。
森谷委員	登山道については、同規模のものが里地里山協議会や山盛りの会等でも実施している。そのため、関係者間で情報の共有は図れると思う。地域活性化に関する色々なノウハウを交換するべきである。
小澤委員長	あくまで環境再生プロジェクトなので、環境を生かした上でどこまで暮らしを成り立たせるかであると思う。
近藤増男委員	住んでいる人が自分のまちに誇りをもてるかどうかであると思う。住んでいると環境や自然の素晴らしさに気が付かない場合がある。人が来るということはその地域に魅力があるということであるのでその魅力にもう少し磨きをかけてあげようとするとうまいと思う。
小澤委員長	議題の2について事務局から説明願いたい。
藤澤補佐	今年度ワークショップを実施し、プレゼンテーションを実施した中で、関係者の皆様に同様にお知らせし、どのような関わり方や情報共有が必要かを検討委員会で提案していただいた訳があるが、ワーキングの中で何らかのアクションをとっていかないと失礼にあたるわけであるので、アンケートを作成し配布した。少しずつアンケートが集まってきた。
森谷委員	これを提案されたときにあまり賛成はしなかった。これを提示されることでモデルに選ばれなかったと誤解される方がいると思う。お互いに協力していく趣旨をきちんと伝えないといけない。
藤澤補佐	情報の出し方が、あまり伝わっていない。事業がスタートしたことも含め内容についても発信していかなければならない。
小澤委員長	事務局も忙しいと思うが、事務局側も誠意を持って対応するべきである。
近藤増男委員	環境緑化協会の部会で幹線林道の清掃を実施している。モデルとして取り上げたわけではないが、本事業ときっかけを同じくして活動を実践しているわけであるので、報告書等に記していてもいいのではないかと思う。 出来れば報告書の幅を広げていければよいと思う。
小澤委員長	各連携をとって行く中でネットワークを作っていければいいと思う。
森谷委員	一般参加者についてはどうか。
藤澤課長補佐	4つの中で一番先行している事業が荻窪である。荻窪のイベントについてはパンフレットを作成するなどしているのだから、パターン化できればと思う。1つは事業を進めようとする者からパンフレット案を出していただく、関係機関の調整ということでトイレや駐車場等の問題も近隣施設等に協力いただいているところであるので、アイデアがあれば出していただきたい。
村越委員	自然環境情報調査、環境マップであるが、環境再生プロジェクトのモデル及び関連して派生してできた事業についてある程度活動マップにおとしてみたらどうかと思うがいかがか。
小澤委員長	賛成である。見せ方については様々あると思うが、農工大のマップや小田原市の地理情報システム等に載せたらという意見があるが、情報は集めて整理しておくべきである。
森谷委員	10月3日のイベントの広報を単発で出したが、非常に反応が悪い。今回は参加できないが、次回のイベントに参加したなどのよう要望に

	<p>答えられるように、その他のイベントにも参加できるような広報の仕方を考えるべきである。生ごみ堆肥化サポーター制度のような一括広報を行うべき。</p>
小澤委員長	<p>10月以降イベントが立て込んでおり、皆さんのなかで整理して使うようにするべきである。早急に広報の仕方を考えるべき。</p>
藤澤補佐	<p>個々のイベント情報がバラバラに出ているということで全体が見えるような広報の仕方を考えるべきである。</p>
近藤忠委員	<p>環境再生のインターネット上の情報をそれぞれの活動別に分けて掲示することで、その分野に関連した団体等の活動協力が得られるのではないか。</p> <p>基本的に参加者を巻き込むということに関しては、グランドワークもそうであるが作業だけではなく、楽しむ、楽しめるといったキーワードが必要である。深い部分で自分のためになった等の参加メリットがないといけない。そのためにもキャッチフレーズ的なものが必要である。</p> <p>事業の窓口はあるが、責任の所在が明確でない。誰に相談していいのかもよく分からない状況である。</p>
星野副会長	<p>生ごみプロジェクトの関係であるが、堆肥を実際の畑に利用してみて、どの程度発育の状態などの変化があるのか等を試してみることで実際に農作業をしている方に理解を得て参加者を増やすことができる。行政の範囲を超え、地域で取り組まなければならない問題をどのように解決していくのか、組織を新たにつくるのか。</p> <p>サロン活動を展開していこうという。11月頭には第1号のサロンができる。市民の今日交流の場の必要性やサロンの役割が重要である。</p> <p>行政と地域との間の問題を解決するための議論が必要である。</p>
小澤委員長	<p>地域の企業等にも協力を得たほうが良い。また、近隣の学校等の協力や若手の協力も必要である。</p>
村越委員	<p>生ごみプロジェクトのキャッチフレーズはどのように決めたのか。</p>
星野副委員長	<p>ごみという表現はあまり印象がよくないが、なまを生かすということで市議会でいきごみというネーミングをつけたほうがよいということになった。</p>
近藤忠委員	<p>前回近藤委員がエコで楽しいエコジョイというキャッチをつけていたが検討委員内でこういった名前をつけるのは賛成である。</p>
森谷委員	<p>他に意見がないのであればエコジョイでいいと思うがいかがか。</p>
小澤委員長	<p>1回つけてしまうと定着してしまうので、みんなで意見を出し決めたいほうが良い。議題の3に入る。</p>
藤澤補佐	<p>今年度の3回目ということで最終報告をまとめるにあたって、個々ではエッセンスが引き出されていない状況の中で時間も限られているのでご意見いただければと思う。構成として、実証事業は既に活動が始まっているので、何らかの形で活動を載せていくべきであり、さまざまなエッセンスや機能を自由にご意見いただければと思う。</p>
森谷委員	<p>自治基本条例の報告書の骨子案が提出されたが、全検討委員会から具体化して、小田原市の動きを作っていきたい。全市で行われていることの環境版が環境再生プロジェクト検討委員会であり、市民協働など地域コミュニティ検討委員会等でも同様のことが言われているが、共通の部分を検討委員会内で共有するべきである。</p>
近藤忠委員	<p>自治基本条例や地域コミュニティの報告書が今年度作成されるが、</p>

	<p>そのあたりの連携がとれたら良い。書式、書き方等がそろえば、庁内の連携も取れているのだと思う。</p> <p>実証（モデル）事業を進めてくと、地域のコミュニティと密接に関わっていて、各種自治会、団体等と上手く関わっていかなければ進まない。</p> <p>報告書の作成についてであるが、具体的なものはかけないのではないかと思う。必要な機能を羅列していくことになると思う。それぞれのフェーズに合わせて反省点を盛り込んでいけるのではないかと思う。</p> <p>今後の環境再生の可能性について、新たな地域の子コミュニティの形成について、地域に対してのテーマ出しであったり、企画であったり相まっている。エコを実践しながら、地域コミュニティを進めていくことで、地域への発信になるのではないかと思う。</p>
小澤委員長	<p>報告書の考え方としては、近藤委員がおっしゃったような関連が必要である。</p> <p>環境基本計画内での、環境再生プロジェクト検討委員会の位置づけを整理するべきである。</p>
村越委員	緑の基本計画の位置づけは？
藤澤補佐	みどり公園課で作成している。策定が少々遅れると聞いている。
森谷委員	来年の継続組織についてであるが、資料を作成したのでご覧頂きたい。
星野副委員長	環境問題というのは、どんな環境であれそこに存在する住民を含めそこにある組織等に入っていけるような関心を持てる取り組みをテーマづけるべき。組織、住民が入りやすいテーマ及び組織をつくるべきである。
小澤委員長	報告書については個々に協議いただき洗い出しを行っていききたい。
藤澤課長補佐	資料5である。総務省緑の分権改革に小田原市が採択されたが、コミュニティの形成あるいは地域をどうしていくのかといったところにつながるような環境再生プロジェクト、生ごみおだわらプロジェクトなど全体を連携した中で小田原市の活動の一環として、冠がかぶさったとご理解いただき推進していきたい。
小澤委員長	これは報告事項としてよろしいか
藤澤課長補佐	結構である。
小澤委員長	質問事項はあるか。
近藤増男委員	荒地の回復、和留沢の活動についてであるが、従来元気回復事業から約2年間程になると思うが、7箇所の荒廃農地が田んぼや畑に再生されている。プロジェクトについては調度良いタイミングで参加させていただいている。環境再生プロジェクトで実施していることが里地里山の状況と一致している。目指しているものが同じであるので、少しずつ実施させていただいていることがありがたい。
村越委員	近藤委員の意見に関係していることであるが、関係資料5の活動以外にも環境再生プロジェクトの内容としてあがってくるのか。
藤澤課長補佐	環境再生プロジェクトについては、35の応募事業について、動けるものから動いていただくという形でよいかと思う。
森谷委員	この中の活動は自分が全部関わって共通した会員である。より連携をして欲しいことそして、重複している情報があるので、住み分けていただきたいということである。
小澤委員長	他になければ、閉会する。